

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第158号 会 報 1997年6月16日

目 次

| | | | |
|----------------------|---|-----------------------------------|----|
| 第102回総会並びに講演会開催のお知らせ | 1 | 第194回運営委員会報告 | 7 |
| お知らせ | 1 | 合同誌運営委員会報告 | 8 |
| 講演申し込みについて | 2 | 人事公募 | 8 |
| SGEPSSホームページ利用のすすめ | 2 | 研究助成金案内 | 11 |
| 総会・講演会交通案内 | 3 | 大林奨励賞や長谷川・永田賞基金 のための募金活動結果(補足) | 11 |
| 講演申し込み用紙 | 4 | SGEPSS Calendar | 12 |
| 予稿原稿フォーマット | 5 | | |
| 合同大会、合同誌、および学会連合の今後 | 6 | | |

第102回総会並びに講演会開催のお知らせ

第102回地球電磁気・地球惑星圏学会総会並びに講演会は、北海道大学大学院理学研究科のお世話により下記の通りに行われます。

期間：1997年10月2日(木)～5日(日)

場所：総会及び講演会会場

北海道大学 学術交流会館 札幌市北区北10条西8丁目

(最寄り駅：JR札幌駅。詳しくは3ページの案内図をご覧ください。)

日程(暫定)：10月2日(木) 一般講演、ポスター発表
10月3日(金) 一般講演、ポスター発表
10月4日(土) 一般講演、総会、特別講演、懇親会
10月5日(日) 一般講演、ポスター発表



- ★総会の宿泊・航空券の案内と申込書が同封の別冊にあります。
- ★1998年合同大会のセッション・シンポジウム提案の一般公募については、同封の連絡会ニュースをご参照ください。
- ★第17期日本学術会議地球電磁気学研究連絡委員会など委員候補者の選挙を行ないます。(同封：説明文および投票用紙)
- ★学生会員資格の継続を希望する方は手続きが必要です。(同封：更新用紙)
- ★田中館賞推薦および若手海外派遣申請の〆切は8月末です。
(<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss>に情報があります。)

講演申し込みについて

【講演申込および予稿原稿送り先】

★地球内部および月・固体惑星関係

〒113 文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所
笹井洋一 宛

★超高層（太陽・惑星間空間、地球・惑星電磁気圏 および地球・惑星大気）関係

〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所 太陽系プラズマ研究室
早川 基 宛

【投稿の方法（郵送）】

- 4ページの講演申込用紙をコピーしたものに必要事項を記入して、予稿原稿とともにお送りください。
- 申込用紙、予稿原稿ともにコピーを同封して下さい。コピーを同封していないものは受け付けません。
- (a)講演申込用紙の氏名、所属はプログラム編集・印刷の都合上、日本語表記が可能な場合は必ず日本語でお願い致します。
 - (b)講演題目は、予稿と同じ言語でお願いします。
 - (c)外国人の氏名はアルファベット表記でも差し支えありませんが、所属はできるだけ日本語で表示して下さい。
 - (d)日本人著者名の場合は、漢字とアルファベットの両方の欄に記入されていること。
 - (e)英語講演題目は、文頭、固有名詞、略号以外は小文字とすること。
- 予稿原稿のフォーマットに注意願います。特に左上の10mm×35mmのスペースは予稿集の印刷時に講演番号を付けるためのものですので、この部分にはタイトル等が入らないようにして下さい。
- 講演申込みは筆頭著者一名につき、口頭発表一件、ポスター発表一件まで受付けます。(但し、プログラム編成の都合上、実際の発表が希望通りにはならない事がありますので予めご了承下さい。)又、非会員のみによる発表は受けられません。
- 講演・ポスター発表の際にビデオ(VHS)、パソコンもしくは映写機(8mm)を使われる方は、その旨、プログラム申込用紙にご記入下さい。

【電子メール・WWWによる投稿の方法】

従来までの郵送による方法に加え、電子メール、WWWを利用した投稿の受付を開始します。但し、電子メール、WWW共に予稿集には図の添付ができませんので、予稿集にどうしても図を載せたい方は従来通りの郵送による申込み方法をご利用下さい。電子メール、WWWを利用なさる方へはオンラインの予稿集から各自のホームページにある図へのリンクを張るサービスを行います。また、ホームページを持たない会員へは anyon-

mous ftpを利用してjpg、gif形式の図面をお送り頂きその図面へのオンラインの予稿集からのリンクを張るサービスを行う予定です。ご利用下さい。

電子メール、WWWを利用した投稿方法等についての詳しい情報はtaikai@gtl.isas.ac.jpへ、本文にinfoとのみ書かれたメールを送っていただくか URL <http://www.gtl.isas.ac.jp/sgepss/toko.html>を参照して下さい。(いずれも7月の半ばからサービス開始予定。)

【締め切り】

- 予稿原稿の申込み締め切りは、郵送による場合には8月8日(金)夕方5時、電子メール、WWW利用の場合には8月11日(月)午前0時と致します。FAX、電話等による遅延の依頼は一切受けられません。
- 総会議題の申込は、8月8日(金)迄に会長宛書面でお願います。

SGEPSS ホームページ利用のすすめ

SGEPSSホームページ(<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss>)には、今回の総会案内・会報をはじめとして、SGEPSS関連の会議・研究会等の日程を記載した「カレンダー」や助成金・学術賞の申請期限に関する恒例スケジュールを掲載した「年間予定」のコーナーが用意され、適宜、最新の情報が運営委員会より提供されています。

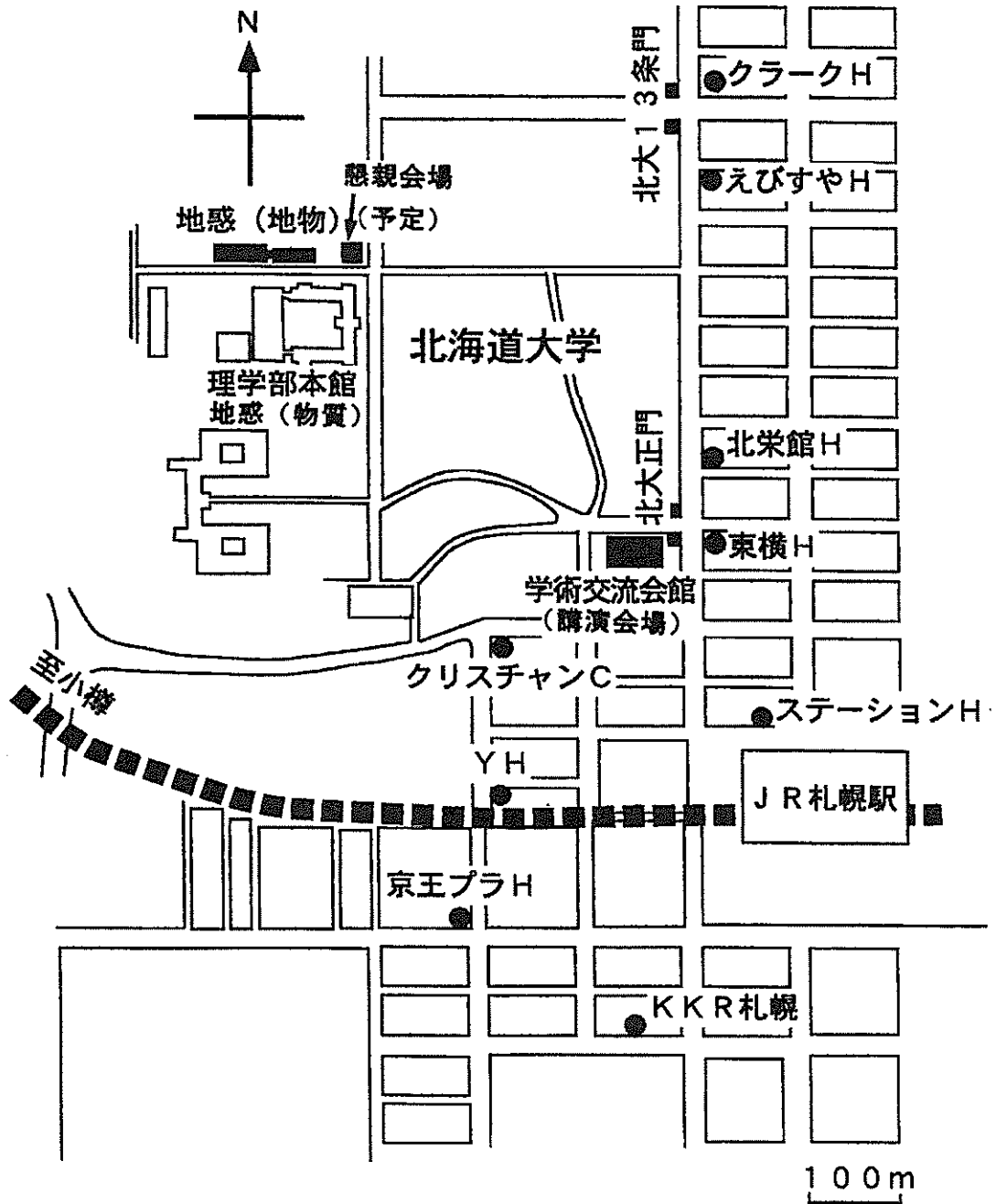
また、ホームページを会員個人が自由に情報発信することのできる場とするために、以下の3つのコーナーが用意されていますので、積極的に利用して下さい。

- (1)「掲示板」(sgepssbb@kurasc.kyoto-u.ac.jp):
研究会の案内、人事・共同利用公募等の記事を掲載することができます。
- (2)「フォーラム」(sgepssfrm@kurasc.kyoto-u.ac.jp):
学会に関係する様々な問題について、会員個人の意見を自由に投稿することができます。
- (3)「WHO'S WHO」(sgepssrnhp@kurasc.kyoto-u.ac.jp):
会員の電子メールアドレス・URL等の個人情報を登録して、相互のコミュニケーションを促進することができます。個人ホームページを持っていない会員も、個人情報を記したテキスト文書を用意するだけで、簡易ホームページを開設することができます。

以上の何れのコーナーへも、併記のアドレスに電子メールを送ることにより、記事を投稿することができます。「掲示板」と「フォーラム」は、電子メールグループにもなっています。投稿された記事に含まれるURL(<http://...>)には自動的にハイパーリンクが設定されますので、投稿記事を短くして、他の関連ホームページで詳しい情報を提供することもできます。詳しい投稿方法はホームページのそれぞれのコーナーをご覧ください。

第102回 地球電磁気・地球惑星圏学会 総会・講演会交通案内

1997年秋の地球電磁気・地球惑星圏学会の会場およびホテル案内図を示します。
 総会および講演会会場は、北大正門を入ってすぐの北大学術交流会館です。北大正門は、JR札幌駅の東西2ヶ所にある改札口の西側を出て、ほぼ北の方向徒歩5分強の所です。



講演申し込み用紙 (コピーしてお使いください)

1. 題目 (予稿原稿と同じ言語にて記入) :

2. 氏名 (所属) (日本語にて記入、連名の場合スピーカーには○を付ける) :

連絡先氏名 : _____

Tel: _____ Fax: _____ e-mail: _____

3. 投稿区分 (○をして下さい。複数選択可、最低1つは必須)

- A 地球内部: 1. 主磁場ダイナモ 2. 電気伝導度 3. 地殻活動電磁気学 4. 磁気異常
5. 岩石磁気・古地磁気 6. 磁場計測 7. その他 ()
- B 固体惑星: 1. 太陽系 2. 月・隕石 3. 比較惑星 4. その他 ()
- C 超 高 層: 1. 大気圏 2. 電離圏 3. 電磁圏 4. 磁気圏 5. 太陽圏 6. 惑星圏
7. 機器開発 8. その他 ()

4. 発表形式: 1. 口頭 2. ポスター 3. どちらでも可

(必ずしもご希望に添えないことがあります)

5. 映像装置: 1. ビデオ装置を使用する (VHS標準フォーマットのみ)

6. 発表順位: 以下の講演の (前/後) を希望します。

著者: _____

題目: _____

7. 予稿原稿は次ページのフォーマットに従って、A4用紙にできるだけワープロで清書して下さい。

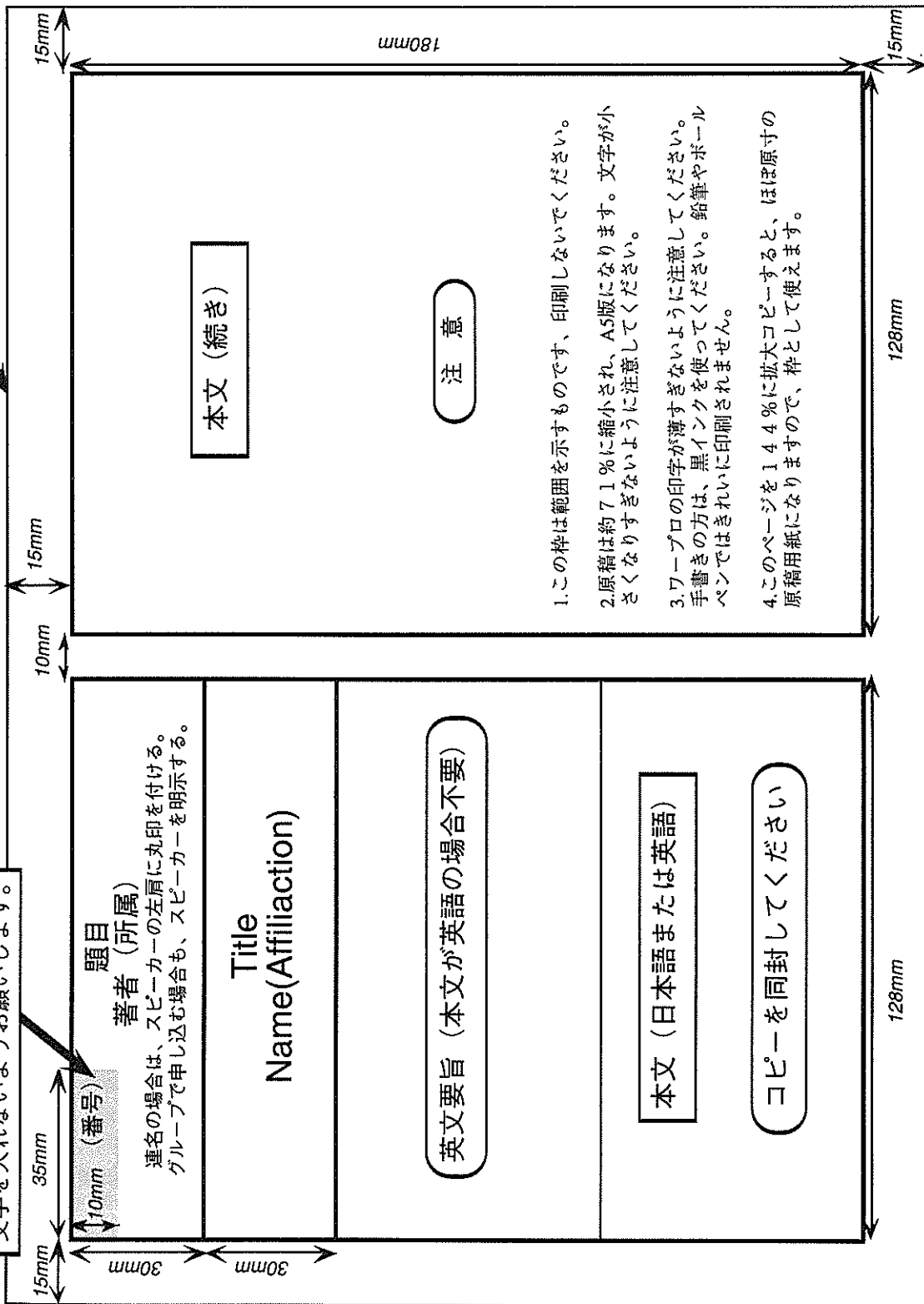
8. 予稿原稿のコピーを必ず1枚同封してください。

9. その他ご希望、ご意見などがありましたら以下にお願いいたします。

予稿原稿フォーマット

A4用紙の外枠

この欄には講演番号が入ります。
文字を入れたいようお願いします。



合同大会、合同誌、および学会連合の今後

会長 河野 長

以下に述べることは、まったく個人的な考えであって、学会の方針などではない。しかし、こうした問題に関する一般的な議論は、すでに運営委員会レベルでは開始されている。学会全体としてもこうした議論が活発になることを期待して、一つの考え方の例として発表することにした。

1990年から、当初は「3年程度たったら見直す」という前提で始まった合同大会は、すでに今年で8回を数え、すっかり定着した行事になった。更に来年からは合同誌が刊行される。ある学問分野の発展を計るためにもうけられている学会にとって、研究成果発表のための講演会の開催と論文誌の刊行は、最も重要な機能であるといって過言ではない。このように学会機能の重要な部分が、他学会との共同によって実施されるようになった現実の状態は、組織面でもより一層の統合の必要性を示していると思われる。これは慎重な取り組みが必要な問題であるが、現在ではある種の緊急性も発生しているように思われる。

以下ではこのような統合組織が必要と考えられる理由を概観し、次いで比較的実現しやすいと思われる統合の方向について試案を述べる。

1. 学会組織統合の必要性

学会は学問の進展をはかるためにある。もし現在のやり方で学問が十分発展するという見通しがあるなら、組織をいじるようなことに時間を費やすべきではないであろう。しかし現実には、地球物理の中で近接した分野に小さな学会が分立している現実が様々な困難を引き起こしている。合同大会の開催や合同誌の発行は、これらの困難を乗り越えるためにあみだされた手段であるが、必ずしも完全な解決にはなっていない。組織についても統合を必要としている原因を以下にあげるが、これらのうち、(1) - (3)は主な原因が学会の外にあるもの、(4) - (6)は主な原因が学会の中にあるものである。

(1) 日本学術会議

現在地球物理学関連では各学会に対応した地震、測地、火山、気象、海洋、陸水、地球電磁気の各研連と、これらの代表者から構成される地球物理研連が存在する。この構成が学問の現実に必ずしも合っていないことは、惑星科学専門委員会の設置でも示された。物理や天文などはそれぞれ一分野が一研連であり、他分野からは地学系の研連の多さは異常だと見られている。

こうした背景に加え、日本学術会議では全体にわたるリストラクチャリングを検討しており、第17期(1997-2000

年)の間に地球物理関係研連の見直しを行なうことが確定した。再編成の案としては、固体、流体、超高層の3研連にという考え方もあるようだが、IUGGへの対応という点では1つの研連にまとめる方がわかりやすい。いずれにしても統合が進むことは確実である。

(2) IUGG

地物研連では2003年のIUGGを日本に招致することを決め、その作業のために各研連からの代表を集めた準備会を作った。しかしこの体制では各研連(学会)は様子見をしており、積極的にイニシアティブをとろうとする動きはない。

本当にIUGGを招くなら、そのために主体的に取り組む(臨時のものでない)組織が必要である。

(3) その他の国際対応

AGUが隔年に開いているWPGMなど、日本の地球物理学学会が全体として対応する方が良い問題は多々あるが、現在のところは各学会が個別に反応している状況である。

(4) 合同大会

合同大会はすでに8回開かれ、学会の枠を越えて学問の成果を発表する場としてすっかり定着した。しかしこのやり方には次のようないくつかの問題点も内蔵している。

(a) 運営主体

合同大会連絡会という組織があるが、これは参加も不参加も任意で年により参加学会が代わることもある。従って、学会の運営のやりかたについて統一した意志を形成しにくい。このことは各学会に固有の要求(ある種のわがまま)を許容することで、大会における科学の質を下げる方向に働いている可能性がある。一方参加者が増えて2000人を越える規模になっており、例えばSGEPSSの秋季大会などと違って、開催を引き受けられる機関は極めて限定されてきている。しかし大会を開く主体となる「学会」がなく、連絡会も実行機関ではないので、LOCに大会準備を任せる以外に手段がない。

(b) 事務局

これまでは東工大(というより本蔵義守氏個人)が事務局を引き受けていた。

しかし本蔵さんがJGG(及び合同誌)編集長になったことで、他の機関に事務局を引き受けて欲しいと要望している。

(5) 合同誌

編集委員会は学会運営とは独立なので特に問題はな

い。しかし編集事務以外のことを処理するために何らかの組織が必要であり、このために各学会から委員が出て「運営委員会」を作っている。しかしこの委員会は ad hoc な性格を免れず、難しい問題(例えば赤字が出た時の各学会の負担)が発生した時十分機能を発揮できるという保障はない。

(6) 大型プロジェクト

惑星探査機など、地球物理や関連分野でも 100 億円を越えるプロジェクトもそれほど珍しくなくなった。かつては、学会の偉い先生方が直接文部省に働きかけて、あるプロジェクトをスタートさせるというようなこともあったかもしれないが、今やそんな時代ではない。このような大きなプロジェクトの必要性や、一般の小規模な科学研究との整合性については、広く関連分野内でコンセンサスを作っていかなければならない。特に巨額の研究費を要するプロジェクトについては、直接の関連分野ばかりでなく学界一般でも認められるものでなければ、tax payer である国民の理解が得られない。現在の分断した個々の学会では、こうした合意形成の仕組みができていないために、他分野からの要求と競争する場合不利になることも考えられる。

2. 実現可能な改革の案

以上述べたように、地球物理各学会のさらなる統合は、内外から要求されていると考えられる。しかし各学会とも既に 50 年程度の歴史を持ち、それぞれの学会に固有の事情をかかえている。この現状では、性急な統合を叫ぶことはむしろ学会連合への障害となるばかりである。そこでこの数年間ぐらいのタイムスパンで実現可能と思われるものに限って、統合を進める案を考える。この案は、すでに実際に学会が連合してやっている部分を扱うための二階部分を、各学会が個別にやっている一階の上に作ろうとするものだと総括することができる。

(1) 学会連合

各学会の参加を得て学会連合を作るが、その機能は現在各学会が連合して実施していること、及び共通の基礎となるもののみに限定する。気象、海洋など流体系の学会が連合に消極的であることを考えると、連合の対象を当面固体と超高層の分野に限定するのが現実的であろう。すでに各学会が連合して行なっている業務としては、(1) 合同大会の運営、(2) 合同誌の発行に関する事務、(3) IUGG など対外対応、がある。共通の基礎としては、(4) 会員事務管理(名簿、会費納入)、(5) 共通情報誌(EOS に相当)の発行などがあげられる。

学会連合の会員は参加各学会のいずれかに属するものとする。学会連合の役員は各学会から選出した者を当てる。学会連合運営に必要な経費は参加各学会が会員数に応じて納入するものとする。

(2) 各学会との関係

上に述べた共通部分以外は、これまで通り各学会の専管事項である。この中には(1) 秋季大会の開催、(2) 情報誌(固有)の発行、(3) 邦文又は欧文の論文誌(合同誌以外)の発行、(4) その他の活動など、これまでの学会活動は全て含まれる。

(3) これからの進め方

合同誌の問題の場合と同様に、各学会から代表を出してワーキンググループを作り、実現可能性の検討を進めるのが現実的であろう。地震学会では「将来検討委員会」において、法人化などを含めて今後の学会のあり方を検討しているので、学会の統合という視点を失わないように(一地震学会会員として)会長・副会長にも申し入れを行なった。

第 194 回運営委員会報告

日時：1997年5月24日 13:30-19:30

場所：東京大学理学部3号館326室

出席：河野会長および全運営委員

主な検討事項・結果：

1. 前回、前々回議事録検討
いずれも原案のまま承認した。
2. 大林奨励賞候補者推薦作業委員会報告
津田委員長ほか5名の委員の構成および作業日程を承認した。
3. 長谷川・永田賞選考委員会報告
選考基準に関して湯元委員長の方針を承認し、現在検討中の件案に関してもこの方針で作業を続けることとした。
4. 地球惑星科学関連学会連絡会報告
次回東京合同大会の方針についての報告を受け、投稿方法、セッション構成、プログラム編成などを議論した。
5. EPS誌運営委員会報告
テラパブとの契約、投稿方法、EPS賞、内規の改定などについて議論した。秋の大会に内規の改定案を提示する。
6. EPS誌編集委員会報告
編集方法、eメールによる投稿、英文校閲などについて議論した。
7. 地球環境連科学関連学会協議会報告
学会間の情報交換の円滑化を目的に発足するので、本学会からも委員を派遣する。
8. 地球電磁気研連報告
IUGG招致準備、研連の見直し、次期委員の選出について検討した。地球電磁気研連7名、惑星

(オブザーバ) 1名、SCOSTEP 3名の選挙による選出が必要。

9. 科研費審査委員選出

内規に従い、運営委員会が決定する。

10. 新入会員承認・退会者確認

| | | |
|---------|---------|-------|
| 正会員 | 木下良雄 | |
| 正会員(学生) | 浅村和史 | (京都大) |
| | 中川史丸 | (東北大) |
| | 土屋史紀 | (東北大) |
| 退会者 | 兼岡一郎 | (東京大) |
| | 玉尾 孜 | |
| | 南部充宏 | (九州大) |
| | 児玉正弘 | |
| | 清水吉雄 | |
| | 藤田正晴 | (通総研) |
| | 福井工大図書館 | |

11. 特別会計立て直し案

賛助会費の中から毎年5万円を特別会計に繰り入れる案を承認した。また、学生会員のチェックを強化することとした(一般会計)。

12. 秋季大会講演申し込み方法

合同大会に向けてのテストも兼ね、従来どうりの方法に加え、e-mailおよびwebによる方法について議論した。新しい方法では図は扱えない。

13. 学会連合について

地球物理学連合の構想、合同大会の組織などについて議論した。

14. シンポジウム等後援依頼

今年7月台北におけるAGU Western Pacific Geophysical Meetingおよび来年3月浜名湖における「サブストームに関する国際会議」の後援を承認した。

15. 次回運営委員会

北海道大会中に開催する。

合同誌運営委員会報告

(第1回: 4月19日、第2回: 5月10日)

小野 高幸 運営委員

第100回SGEPSS総会における承認を受けて、EPS誌運営委員会が発足した。SGEPSS、地震学会、火山学会、測地学会及び惑星科学会より委員2名が出て、EPS誌の発刊に向けての作業が始まった。

EPS誌運営委員会議長には、惑星科学会の比屋根肇氏が就任し、会計、庶務・渉外、ニュースレター編集等の役割分担が決められ、作業が進行中である。これまでに以下のような事柄が具体的にになっている。

財政については、2段組A4版で年間1000-1100ページのEPS誌が送料を含め1巻4200円にて配布されることとなった。この価格は海外からの購読に対しても船便による限り同じとされた。投稿料は設けず、別刷り100部を購入することでこれに充てることとした。また論文の著作権についても、簡便な手続きによって著者の権利が最大限守られるよう、具体的な方法について検討が進められている。

EPS発足に関する広告・投稿の呼びかけ等は、フォーマットをテラバブ社が準備している。さらにEOSへの広告掲載は同社が行うこととなった。

EPS誌に関する学会間内規、覚え書き、テラバブ社との契約書並びに覚え書きが作成された。SGEPSSとしては、これらに対応すべく学会規約・内規を改訂する必要があるが、SGEPSS運営委員会(第194回)において、この点に関する具体的な検討作業が始められた。

人事公募

●北海道大学大学院理学研究科

地球惑星科学専攻(4件)

【1】

1. 職種・人員: 地球惑星流体科学講座 教授 1名
2. 専門分野: 地球惑星大気物理学及びその関連分野
3. 着任時期: 平成10年4月1日(予定)
4. 応募書類:
 - (1)履歴書(学会活動状況についても別紙に付記すること)
 - (2)いままでの研究概要(2,000字以内、研究業績との関連をわかりやすく)
 - (3)研究業績目録
(原著論文・著書・総説と報告書等に分ける)
 - (4)主な原著論文別刷り 5篇(複写可)

- (5)今後の教育・研究の計画・抱負(2,000字以内)
 - (6)科学研究費等の採択状況、国内外の研究プロジェクト等への参加状況
 - (7)その他、学位論文審査の件数(審査年、主査・副査の別、博士・修士の別)
5. 応募締切: 平成9年9月16日(火) 必着
封筒の表に「教官公募(大気)関係」と朱書きし、書留にて郵送すること
6. 書類の送付及び問い合わせ先:

〒060 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科

地球物理学教室主任 播磨屋敏生

Tel: 011-706-3576 Fax: 011-746-2715

【2】

1. 職種・人員：地球惑星流体科学講座 教授 1名
2. 専門分野：地球惑星流体物理学及びその関連分野
3. 着任時期：平成10年4月1日（予定）
4. 応募書類：
 - (1)履歴書（学会活動状況についても別紙に付記すること）
 - (2)いままでの研究概要（2,000字以内、研究業績との関連をわかりやすく）
 - (3)研究業績目録（原著論文・著書・総説と報告書等に分ける）
 - (4)主な原著論文別刷り 5篇（複写可）
 - (5)今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字以内）
 - (6)科学研究費等の採択状況、国内外の研究プロジェクト等への参加状況
 - (7)その他、学位論文審査の件数（審査年、主査・副査の別、博士・修士の別）
5. 応募締切：平成9年10月6日（月）必着
封筒の表に「教官公募（流体）関係」と朱書きし、書留にて郵送すること
6. 書類の送付及び問い合わせ先：
〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究科
地球物理学教室主任 播磨屋敏生
Tel：011-706-3576 Fax：011-746-2715

※【1】及び【2】の両公募への応募も可能です。

【3】

1. 職種・人員：理学部付属海底地震観測施設
助手 1名
2. 専門分野：固体地球物理学
（海底諸観測に関心のある方が望ましい）
3. 応募資格：博士の学位を有する者、または平成10年3月までに取得見込みの者
4. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
5. 応募書類：
 - (1)履歴書
 - (2)いままでの研究概要（2,000字程度、研究業績との関連をわかりやすく）
 - (3)研究業績目録（原著論文・著書・総説と学会発表等に分ける）
 - (4)主な原著論文別刷り 5篇以内（複写可）
 - (5)今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）
 - (6)応募者について意見を伺える2名の方の氏名と連絡先（住所、電話番号等）
6. 応募締切：平成9年7月28日（月）必着
封筒の表に「教官公募（海底地震）関係」と朱書きし、書留にて郵送すること
7. その他：採用後は北海道大学大学院理学研究科地

球惑星科学専攻の地球惑星変動学講座（協力講座）において大学院教育にも携わることになります。

8. 書類の送付及び問い合わせ先：
〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究科
地球物理学教室主任 播磨屋敏生
Tel：011-706-3576 Fax：011-746-2715

【4】

1. 職種・人員：理学部付属地震予知観測地域センター
助手 1名
2. 専門分野：広く地震学に関連した分野
3. 応募資格：博士の学位を有する者、または平成10年3月までに取得見込みの者
4. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
5. 応募書類：
 - (1)履歴書
 - (2)いままでの研究概要（2,000字程度、研究業績との関連をわかりやすく）
 - (3)研究業績目録（原著論文・著書・総説と学会発表等に分ける）
 - (4)主な原著論文別刷り 5篇以内（複写可）
 - (5)今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字程度）
 - (6)応募者について意見を伺える2名の方の氏名と連絡先（住所、電話番号等）
6. 応募締切：平成9年9月1日（月）必着
封筒の表に「教官公募（地震予知センター）関係」と朱書きし、書留にて郵送すること
7. その他：採用後は北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の地球惑星変動学講座（協力講座）において大学院教育にも携わることになります。
8. 書類の送付及び問い合わせ先：
〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究科
地球物理学教室主任 播磨屋敏生
Tel：011-706-3576 Fax：011-746-2715

●九州大学理学部地球惑星科学科 地球惑星電磁圏物理学講座

1. 職種・人員：助教授 1名
2. 専門分野：地球惑星電磁圏物理学
3. 着任時期：決定後なるべく早い時期
4. 提出書類：
 - (1)履歴書
 - (2)これまでの研究概要（A4用紙2枚以内）
 - (3)研究業績リスト（原著論文、総説、報告書、著書に区分）
 - (4)主要論文の別刷り3編（業績リストに○印を付す）

- (5) 着任した場合の研究・教育に対する抱負
(A4用紙2枚以内)
- (6) 応募者を熟知し、意見を伺える方2名の氏名と連絡先、並びに応募者との関係

5. 公募締切：平成9年7月28日(月)

6. 書類送付先および問い合わせ先：

〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部地球惑星科学科
地球惑星電磁圏物理学講座所属助教授候補者
選考委員会 委員長 湯元清文
Tel：092-642-2673 (ダイヤルイン)
Fax：092-642-2685
E-mail: yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

7. 応募上の注意：

- (1) 提出書類の内、(4)以外は全てA4用紙を使用すること
- (2) 書類は封筒に「応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと

※なお、地球惑星科学科は現在、近い将来に5大講座からなる新編成の学科への転換を計画しています。

●名古屋大学太陽地球環境研究所 (2件)

【1】助手

1. 公募人員：1名
2. 所属部門：太陽圏環境部門(愛知県豊川市)
3. 研究分野：惑星間空間物理学および太陽物理学

当研究部門では、太陽風、太陽中性子、先史宇宙物理学、宇宙線変動、太陽圏大規模構造、宇宙ガンマ線、MACHO等の観測的な研究を行っています。今回の公募では、太陽風の観測プロジェクトに参加し、太陽風及びその関連する領域の研究を推進できる意欲的な方を希望します。太陽風観測は、主として電波科学的手法を用いて行われ、当研究所が所有する4台の大型UHF電波望遠鏡の他、他機関の電波望遠鏡を利用して行われています。近年、国内VLBIシステムを用いた太陽風プラズマ観測も開始されました。また、海外の電波望遠鏡施設を利用した観測を計画するとともに、豊川キャンパス内に大型のマイクロ波アンテナの建設も計画しています。

全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分に理解し、当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。当研究所は、理学研究科及び工学研究科の大学院生を受け入れており、大学院教育に熱心な方であることも希望します。

4. 着任時期：決定後できるだけ早い時期。
5. 応募資格：大学院修士課程修了またはそれと同等以上の人。

6. 提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷り、研究計画書。自薦の場合は、本人についての意見を述べられる方2名の氏名と連絡先、他薦の場合は2人からの推薦書。

7. 応募締切：平成9年10月31日

8. (1)あて先：

〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-1-3
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
Tel：0533-89-5182
Fax：0533-84-8806

(2)問い合わせ先：同研究所

小島正宜 Tel：0533-89-5175
kojima@stelab.nagoya-u.ac.jp
徳丸宗利 Tel：0533-89-5176
tokumaru@stelab.nagoya-u.ac.jp

9. その他：

封書に「教官応募書類在中」と朱書きし、書留で送付のこと。

選考方法/名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

【2】COE研究員

<趣旨>

本研究所は、「太陽地球環境の構造と動態の研究」を目的とする全国共同利用研究所として活動を続けています。本研究所が関わる太陽地球系科学は、太陽からのエネルギー放射によって支配される地球周辺から、太陽圏までの広大な領域で起こる現象を研究対象としており、大気圏環境、電磁気圏環境、太陽圏環境及び総合解析の4研究部門と1客員部門(国内客員及び外国人客員)のもとに研究を推進しております。

COE研究員は、平成7年度から卓越した研究拠点(COE)の形成を目指した中核的研究機関支援プログラムの一環として発足した文部省の新たな研究員制度によるものです。本研究所では以下の内容で、本研究所教官と協力して研究を行う意欲的な若手研究者を公募いたします。

<募集内容>

1. 分野：太陽地球系科学
2. 公募人員：1名
3. 任期：1年(審査の上、1年更新可能)
4. 身分・待遇：一般職の非常勤職員(講師)
月額約30万円(経歴等により若干の増減あり)
5. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
6. 応募資格：次のすべての条件を満たしている者

- (1)採用日現在で年齢35歳未満。
 (2)博士の学位を有しているか、又は学位取得が確実であること。

(3)着任予定時に主たる職、或いは大学院生、研究生等の身分を有しないこと。

7. 応募締切：平成9年8月20日(水) 必着

8. 提出書類：封筒の表に「COE研究員応募書類在中」と朱書き、以下①から⑥までの書類を書留でご提出下さい。

①履歴書、②研究歴、③研究計画、④論文リスト及び主要論文別刷り各1部(3編以内)、⑤着任可能時期、⑥自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先を記した書面、他薦の場合は2人の方からの推薦書(健康に関する所見も含む。)

9. 送付先：〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所長 國分 征 宛

10. 問い合わせ先：同上

(直通電話 0533-89-5182)

●東京工業大学理学部地球惑星科学科

1. 公募人員：教官 計2名

2. 専門分野：

(a)教授あるいは助教授：固体地球物理学

(b)教授：超高層物理学

3. 着任時期：平成9年度内

4. 応募書類：

履歴書、業績目録、主要論文別刷り、「今後の研究計画」および「学生院生教育についての抱負」、応募者に関する所見をうかがうことのできる方、1ないし2名の氏名

5. 応募締切：7月15日必着

6. 問い合わせ先：

〒152 目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学理学部地球惑星科学科 本蔵義守

Tel: 03-5734-2341 Fax: 03-5499-4093

E-mail: yhonkura@geo.titech.ac.jp

大林奨励賞や長谷川・永田賞基金

のための募金活動結果(補足)

会報156号で募金活動の結果報告をしましたが、学会事務センター側の処理にミスがあり、下記の9名の会員の方々からの寄付金の報告が漏れており、失礼しました。

募金総額は547,000円となりました。ご協力、まことに有り難うございました。

奥澤隆志、恩藤忠典、住友則彦、高橋忠利、徳丸宗利、鳥居雅之、永田勝明、橋本弘蔵、若井登(敬称略)

(この件は、会報157号で報告するはずが、編集の手違いにより掲載漏れとなってしまいました。深くお詫び申し上げます。)

研究助成金案内

(詳細は総務までお問い合わせ下さい)

●日産学術研究助成(4種)

(A) 総合研究、(B) 海外共同研究

対象：人間-自然環境系に関する研究、他1課題
年齢制限：なし

1件あたりの助成金額：

(A) ~ 1,000万円(5件程度)

(B) ~ 500万円(5件程度)

期間：(A) 2-3年、(B) 2年

募集方法：直接

締切：8月31日

(C) 一般研究、(D) 奨励研究

対象：地球表層環境に関する研究、他3課題

年齢制限：(C) 概ね45才以下、(D) 35才以下
1件あたりの助成金額：

(C) ~ 1,000万円(10件程度)

(D) ~ 200万円(25件程度)

期間：(C) 2-3年、(D) 1年

募集方法：学会推薦

締切：8月21日

<連絡先>

財団法人 日産科学振興財団研究助成係

〒104 東京都中央区銀座6-17-2

Tel: 03-3543-5597 Fax: 3543-5598

●日産科学賞候補者公募

対象者：自然科学分野で重要な発見あるいは新分野の開拓に大きな貢献をした50才未満(来年

3月末時点)の公的研究機関に属する研究者

賞：賞状、メダルおよび研究助成金500万円
推薦用紙請求先：総務

提出先：会長(学会推薦は評議委員会で決定)

締切：7月7日

●日本証券奨学財団研究調査助成

対象者：大学において研究に従事している55才以下の個人またはグループ

対象分野：理工学分野では新素材および環境改善に関するほう芽的研究

助成金額：一件あたり100万円程度、総額6000万円
申請手続：所定の申請書に所属機関長及び同じ専

門の学者の推薦書を添え、8月20日までに提出
問い合わせ先：(財)日本証券奨学財団

〒103 中央区日本橋茅場町1-5-8

日本証券会館6階 電話:03-3664-7113

SGEPSS Calendar

1997年

- 7月24日～25日 第21回極域における電離圏磁気圏総合観測シンポジウム 於 極地研究所
- 8月4日～15日 8th Scientific Assembly of IAGA 9th Solar Terrestrial Physics Symposium International
Commission on the Middle Atmosphere in Uppsala Sweden
- 8月8日 SGEPSS第102回総会・講演会(北海道大学) 予稿(郵送) 締切
- 8月10日 SGEPSS第102回総会・講演会(北海道大学) 予稿(電子投稿) 締切
- 8月18日～22日 Solar Activity Effect on the Middle Atmosphere
at Charles University Prague Czech
- 9月22日～25日 31st ESLAB Symposium Correlated Phenomena
at the Sun in the Heliosphere and in Geospace ESTEC Noordwijk The Netherlands
- 10月2日～5日 地球電磁気・地球惑星圏学会第102回総会・講演会 於 北海道大学
- 11月10日～12日 STE Symposium 於 名古屋大学豊田講堂
- 12月8日～12日 AGU Fall Meeting in San Fransisco California USA

1998年

- 3月9日～13日 International Conference on Substorms - Japan at Lake Hamana
- 3月16日～20日 International Symposium on Dynamics and Structure of the Mesopause Region
(中間圏界面領域の大気構造と力学過程に関する国際シンポジウム)
- 5月26日～29日 AGU Spring Meeting in Boston Massachusetts USA
- 5月26日～29日 地球惑星科学関連学会1998年合同大会
- 7月12日～19日 COSPAR総会 於 名古屋市
- 7月21日～24日 1998 Western Pacific Geophysics Meeting in Taipei, Taiwan

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 河野 長

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学 理学部 地球惑星物理学科

TEL:03-3812-2111,ex.4310 FAX:03-3818-3247 e-mail: kono@geoph.s.u-tokyo.ac.jp

総務 岩上 直幹

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学 理学系研究科 地球惑星物理専攻 (1号館)

TEL:03-3812-2111,ex.4590 FAX:03-3818-0745 e-mail: iwagami@sunep.grl.s.u-tokyo.ac.jp

庶務 渡辺 堯 (会報担当)

〒310 茨城県水戸市文京 2-1-1 茨城大学 理学部 地球生命環境科学科

TEL:029-228-8399 FAX:029-228-8405 e-mail:watanabe@env.sci.ibaraki.ac.jp

運営委員会 〒113東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 (財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)

03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。
会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。